

今春、55期生200名を迎え、15クラス、598名で新年度を迎えました。コロナ禍のなか、臨時休校が続きましたが、5月の連休明けからオンライン学習を実施しました。生徒の健康観察や面談などはライブ配信を使い、授業内容は録画配信を中心に時間割通りの配信授業を行い、自宅でも学べる環境を可能にしました。ようやく、6月8日から通常授業が再開されましたが、残念ながら文化祭や台湾修学旅行などの楽しみにしていた多くの学校行事が、中止や変更を余儀なくされています。突然の休校で、今後の予定が全く見えないなか、友人と過ごす楽しい高校生活や、部活動などのやりたいことができず耐えてきた本校生徒は、あらためて学校に登校すること、毎日の規則正しい生活がいかに貴重なことかを実感しています。

今年度も「社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する人材」の育成を教育目標に掲げ、国際的な視野に立って、地域で活躍する実践を前面に出して、校訓の知徳体である「体力（健康）」「学力（英知）」「豊かな心（情操）」を伸ばさせ、それを将来に亘って貫くために「フロンティア・スピリット」を心に刻ませる教育活動を行います。また、生徒の主体性や自発性を伸ばしながら、深い学びに繋がるような体験型の学習機会を可能な限り提供し、生徒の満足度を更に向上させ、北九州高校に入学してよかったと思えるような活動を行いたいと思います。

また、部活動も活発に行われ、多くの生徒が部活動に所属して、県大会出場などの結果を残しています。女子バレーボール部は2月に行われた九州大会でベスト8の成績を残しました。写真映像部も全国大会に出場しています。進路実績も良好で、国公立大学の進学者も年々増加しており、私立難関大学への合格者も輩出しております。そのような教育活動が評価され、北九州地区の一般入試では3年連続最高倍率となり、本校で学びたいと希望する中学生が多くいることを嬉しく思います。

今後も、北九州市の地方創生に貢献する学校を目指した教育を推進していきます。最後になりましたが、今後も、北九州高校の元気溢れる生徒に対して、激励の言葉やご声援をいただければ嬉しく思います。

福岡県立北九州高等学校
校長 瀬口和幸